

アザミウマ類

ヒラズハナアザミウマ flower thrips(*Frankliniella intonsa*)

ミカンキイロアザミウマ western flower thrips(*Frankliniella occidentalis*)

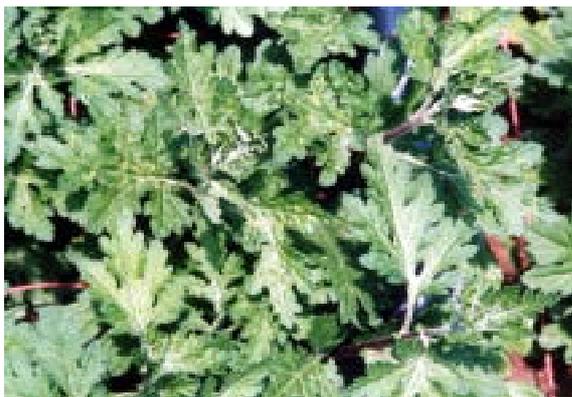
ミカンキイロアザミウマ媒介によるウイルス病 (TSWV : トマト黄化えそウイルス)



アザミウマ類吸汁加害によるケロイド症状



TSWVによる葉の病徴



多発時の被害葉

若芽に加害するため葉の展開に伴い被害が目立つようになる



TSWVの茎での病徴

【発生生態】

アザミウマ類の寄生範囲は広く、ほ場周辺の開花した植物に多くみられ、春から秋に発生する。本県での誘殺トラップ（ほ場設置）では6月から発生が確認されており、6月下旬が急増期となる。また、発育が早く、25℃で10～12日で世代を繰り返す、繁殖は旺盛である。若葉が吸汁され、葉の展開に伴いケロイド症状（ひきつり症状）が現れる。

TSWV（トマト黄化えそウイルス）はミカンキイロアザミウマによって媒介され、汁液伝染する。品種により病徴は異なるが、中位葉に退緑とえそ輪紋を生じた後、えそ斑へと進行し、やがて枯死する。枯死葉付近の茎にえそ条斑が認められる。発症は出蕾期に多い。

【アザミウマの見分け方】

寄生するアザミウマの約80%はヒラズハナアザミウマで、約2%がミカンキイロアザミウマである。寄生数は少ないものの、ウイルス(TSWV)を媒介したり、防除薬剤が違うため、両種を検鏡により見分ける必要がある。見分け方のポイントは次図のとおりである。

ミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマの見分け方

両種を実体顕微鏡で20~50倍で観察し、右図の毛の有無で見分ける。

頭部の相違点(複眼後方刺毛)

無 ヒラズハナアザミウマ

有 ミカンキイロアザミウマ

